

かがやく

— あなたも、わたしも —

特集

生き活きと
誰もが輝く まちづくり



連載 かがやく個性たち

かがやく個性たち ⑦

今回は、我孫子生まれ我孫子育ちで様々な分野で活躍、84歳の今を楽しい第4の人生と称する達人の星野保さんと、我孫子のボランティア活動のさきがけの一人として、現在でも運動のかたちにこだわりつづける外山朝子さんに登場していただきました。



星野 保さん

(手賀沼にマジジミとガシャモクを復活させる会 会長)



外山朝子さん

(あびこボランティアの会)

■湖北に生まれ、気象庁予報官、郵便局長、病院の事務長を務めた後、第4の人生と称して様々な地域活動に献身的な行動力。そのモットーなどは?

ライフワークは手賀沼の浄化です。川端に生まれ、沼を目の前にして育った私の第1第2の人生は、親父のいうままの毎日でした。今は亡き妻にも随分苦勞をかけました。そう、母にもです。だから、沼とともに生きてきた私たちの郷土への罪滅ぼしというか恩返しというような意味合いも含めて、魚貝や水草がかつての様に生息できる手賀沼にしたい。そして、後世に伝えたいという一念ですね。

湖北座会から始め、美しい手賀沼を愛する市民の連合会にまで活動は広がりました。一緒に動く女性のパワーはすごいですよ。それに、みんなが明るくなっていい。小中学生との触れ合いも又楽しい。84歳の今は、最高ですよ。

■仕事、家庭、社会奉仕などの両立、そして印象深いことは?

親が決めた従妹との結婚に素直になれなかった学生だった当時の私、突然隠居宣言をした親の後をやむなく継ぐことになってしまった郵便局、憂さ晴らしに夜中まで酒を飲むは、妻に格別優しくもない。勤めの合間を見ての野良仕事。そして、退職してやれやれという時にまわってきた病院立て直しという大仕事で、胃潰瘍から胃癌に。

今思えば、いつも女性たちが在っての私だったのです。家族の中心だった妻、ただただ感謝です。

「見事にはずした予報官の立派な理由」と週刊誌に書かれたのも痛かったけど、「俺たちの貯金で飲んでる郵便局長」と云われたのには参った。それから地元では酒は一切やらないことにしたんです。

■つづく後輩たちに、エールを

自分なりの信念に迷いなし、自分の能力にあった生き方をしよう、と決めたとき、道が開けます。それと、人生のパートナーでもある女性を大事にすることかな。キーワードは、後継者と女性です。

■NGO・NPOなど新しいスペースを埋めるように行動主体が育ってきたこのごろ、我孫子のボランティア活動の先駆けの一人としてのご苦勞、そして、活動の支えとは?

我孫子に住むようになったのが昭和23年、我孫子初のボーイスカウトでデンマザーをし、我孫子4小の母の会、葦の芽婦人会とつづき、やがて赤十字奉仕団を宮本さんとつくったのです。

でも、枠にとらわれての活動だけでは駄目とっていた時、東葛地区を対象に行われたボランティア



編集後記

▶ 条例制定の問題をどのように伝えるか。先走ってはいけない、後戻りもできない今回のこの特集。でも、編集スタッフの知恵と努力でなんとかできて、ホッとしている私、です。(貴)

▶ 女らしくという言葉が時にはどれほど自律して生きることを阻んでいないだろうか。たおやかに自律した女性と見せかけの女らしさとの差を考えてみたいですね。(H.S)

▶ いままでは漠然としながらも私たちが拘束するものというイメージだった法律に較べて、自分たちの暮らしをこう変えていこうとすることの表れ方が条例なんですね。(父 鈴木)

▶ 少子高齢化が急速に進み、このままだと若者は減り、百年後に日本の人口は半分になってしまうことは必至。今から、何を、どう具体的に取組むのか、重大問題です。(み)

▶ 男性も女性も、共に男女共同参画社会について考え、その現状・課題と関連施策に対して理解と関心を深めるとともに、実現に向けた取組みの一助となりますように。(さとう)

男女共同参画 フォーラム



案内板